

福山友愛病院

末丸 啓二



はじめに

福山市は、広島県南東部の瀬戸内海側に位置し、また岡山県西部に近接しており、山陽新幹線の利用により岡山駅から17分程度と岡山市との交通アクセスという面において大変便利な場所にあります。人口は46万人を超え、広島県内では2番目に大きな中核市であり備後都市圏の中心都市でもあります。市の花としてバラがあり、毎年バラ祭りが開催され多くのバラ愛好家が集います。また、最近では福山市に位置する鞆の浦が、架橋計画問題や、アニメ映画である「崖の上のポニョ」、坂本竜馬の「いろは丸事件」の舞台としてマスメディアなどから大きくクローズアップされ観光客で賑わっています。当院は、福山駅から車で約15分、芦田川河口の福山市営竹ヶ端運動公園（福山市民球場・陸上競技場など）に程近い丘の上に位置しています。眼下に悠然とした一級河川である芦田川の流れと福山の雄大な街並みが見渡せ、一方では瀬戸内海の美しい

海が眺望でき、周囲には荘厳な緑の樹木に囲まれた静かな環境のもと、精神科病院として今年開院24周年目を迎えます。

病院の概要

院是：友愛

病院の理念：不断前進

所在地：広島県福山市水呑町302番地2

診療科：精神科，神経科，内科

病床数（361床）：精神一般病棟（15対1入院基本料）216床，精神科急性期治療病棟入院料（Ⅰ）51床，精神療養病棟94床

施設基準：広島県精神科救急医療施設，応急入院指定病院，医療観察法指定通院医療機関，協力型臨床研修病院，日本精神神経学会精神科専門医制度研修施設，福山市医師会看護専門学校実習制度研修施設

併設施設：

・精神保健センター友愛

精神障害者生活訓練施設（友愛の丘），精神障害者グループホーム（友愛），精神障害者福祉ホーム（やすらぎ），ショートステイ，地域交流センター（ゆうあい），居宅介護支援事業所（ローズ），訪問看護ステーション（チェリー），ホームヘルプステーション（リリー）

・附属精神神経医学研究所

病院の沿革

昭和62年	福山友愛病院開設 病床数200床
平成8年	新館増設 病床数300床に増床
平成9年	応急入院指定病院として指定（指定病床1床） 広島県精神科救急医療施設として指定
平成10年	病床数361床に増床
平成11年	精神科デイケア（小規模30名）届出
平成12年	医療法人絃友会として法人化
平成14年	精神科デイケア（大規模44名）届出
平成15年	精神科デイナイトケア（大規模50名）届出 協力型臨床研修病院として指定
平成16年	精神科デイケア（大規模50名）届出



精神保健センター友愛

平成17年 社会復帰施設「精神保健
センター友愛」開設
医療観察法指定通院医療
機関として指定

平成18年 日本精神神経学会精神科
専門医制度研修施設とし
て指定
精神科ショートケア（大
規模50名）届出

平成19年 精神科急性期治療病棟Ⅱ
届出
精神科デイケア（大規模
70名）届出
精神科デイナイトケア
（大規模70名）届出

平成21年 精神科急性期治療病棟Ⅰ
届出
精神科ショートケア（大
規模70名）届出
マルチスライスCT導入

当院の特徴

精神科救急指定病院

当院は、平成9年度より広島県精神科救急医療施設として24時間医療体制で精神科救急患者を受け入れています。広島県の精神科救急医療システムは、東部と西部のキャッチメントエリアに分かれ、当院は東部に属し、当院以外に2つの広島大学関連病院が参画しています。しかし、それら2病院はいずれも人口約10万人の三原市に位置しており、人口数では当院の位置する福山市近郊が圧倒的に多く、患者数はそれだけ当院に集中しているのが現状です。特に、近年は精神科医療のニーズの高まりと相まって救急患者が相当数増加しており、支援の優先順位が高い重症患者を受け入れる為の「効率的な病床の確保」が当院にとってのパラダイムの1つとなっています。その需給バランスを是正する施策として、まず人的資源の確保に相当な労力を投入し、平成19年度から精神科急性

期治療病棟（51床）を立ち上げ、より迅速かつ柔軟な急性期治療に相応しい医療提供体制を確立する為の土台作りを行いました。また、同時に精神疾患は再入院率が高いことから、入院後の施策として社会復帰病棟において医師や看護師などを中心とした多職種チームによる退院支援に関わる有機的プログラムを本格的に実践し、更には、退院後の施策としてデイケア棟を大幅に増築し140名を定員とした大規模なデイケア・デイナイトケアに門戸を拡げ、積極的に社会復帰へのアプローチを行っています。これらの施策を推進することが再燃再発並びに再入院率を低減し、ひいては地域精神科救急医療における基盤整備の強化になり得ると考え日々実践しています。

社会復帰施設

平成17年、社会復帰施設として「精神保健センター友愛」を設立しました。回復途上にある精神障害者に、居室その他の設備を一定期間利用させ生活の指導などを行うことで、病院から直接地域に出て生活を営む困難さを克服する生活指導訓練施設、あるいは就労支援の為の訓練施設の必要性などから社会復帰の促進を図ることを目的とした施設です。当施設には、入所定員44名からなる精神障害者生活訓練施設、精神障害者グループホーム、精神障害者福祉ホーム、ショートステイと共に、地域交流センター、居宅介護支援事業所、訪問看護ステーション、ホームヘルプステーションから構成されており有機的な連携を果たすべく社会復帰へ向けた取り組みを行っています。「精神保健センター友愛」の設立により、数多くの患者が社会復帰へのゴールに到達し当初の目的は成功している半面、現在、入所予約待ちの状態が続いていることや、更に、社会復帰施設から地域生活移行への受

け皿の確保など需給バランスの是正に苦慮しているのが現状です。

精神神経医学研究所

「患者の笑顔が見たいから。」を具現化し患者に還元することが我々医療者の責任と考え、精神障害の本態、成因、治療及び予防並びに精神的健康の保持増進に関する研究を総合的に行い、精神医学の振興を図り、その成果を普及することにより医療の質の向上に寄与することを目的として附属精神神経医学研究所を併設しました。認知機能障害に関わる研究を中心とした臨床精神神経生理学部門をはじめとして11の部門から構成されており、医師、看護師、コメディカルスタッフなどが研究内容に関連学会において積極的に演題発表を行い、その成果をフィードバックすることで患者への医療の質の向上に繋がっています。また、同時にスタッフの人材育成の面において、研究を通じたスタッフ間のコミュニケーションが増し、チーム医療としての団結力がより一層高まっています。

将来のビジョン

病院個々の利害に捉われず、地域貢献することが私共の将来ビジョンです。ビジョンを達成する為には、段階的な施策が要求されると考えられます。その先駆けとして前述の通り、精神科救急医療を中心として取り組んでいます。精神科救急の本質は、緊急の場合、どのようなスタイルの患者も迅速に受け入れ、選ばない医療を常に実践し続けることであり、かつ当院のプライオリティーとしてより一層地域に貢献できる忍耐力を更に醸成していく必要性があります。しかし、精神科救急は、あくまでも医療の入口であり収束すべきは病院ではありません。平成16年9月、厚生労働省は今後10年の精神保健医療福祉の基本的考え方を「精神

保健医療福祉の改革ビジョン」として提示しました。その基本方針は、「入院医療中心から地域生活中心へ」とあります。換言すれば、患者にとって、「地域で生きる」ことこそが本来の生活であり、「病院のみが病床」という概念はもはや通用しない、「地域が病院」という概念へと変容させ地域生活支援体制を整備し強化することこそが、地域責任性を担う当院のインセンティブにすべきと考えております。その具体的な施策として、自治体の財政状況は厳しく保健所や精神保健センターが担保していた「アウトリーチ事業」を積極的に推進し補完することで、地域生活支援体制の充実を図らなければならないと考えています。また、リーマンショック以来のデフレスパイラルによる将来的な不安や急激な高齢化社会に伴い、気分障害（うつ病）や認知

症などの対策を中心とした地域医療連携ネットワーク作りが急務とされています。その施策として、精神科と一般科との連携ネットワーク作りをより強固なものにして、地域医療関係機関全体のボトムアップにより地域生活支援体制の更なる充実に向けて推進していきたいと考えています。以上、これらの施策により当院のビジョンである地域貢献への活路を見出せるように、今後も不断前進の理念のもと一丸となって取り組んで参りたいと思います。

理念について

当院の理念である「不断前進」とは少々無骨な印象を受けますが、決して物事をあきらめず、どんな困難にも変化を恐れず立ち向かう勇気と希望を持ち、良識を携え皆一丸となって進んでいくものと考えていま

す。医療界において、特に最近は人的社会資源の不足、診療報酬制度の見直しなど病院運営の根幹を揺るがし、適切な医療サービスが提供出来ないといった否定的な話題ばかりです。だからこそ、岡山大学同門の諸先生方が皆一丸となって「不断前進」の心構えで臨もうではありませんか。

この度、岡山医学会雑誌の病院紹介記事を掲載させて頂きましたことに深謝すると共に、謹んで皆様方の御健勝と益々の御発展を心より祈念致します。

平成23年1月受理
〒720-0832 広島県福山市水呑町302番地2
電話：084-956-2288 FAX：084-956-2283
E-mail：ken1@fukuyama.hiroshima.med.or.jp
<http://www.yuai-hospital.or.jp>